



## 史跡 恭仁宮跡(山城国分寺跡)

恭仁京は、奈良時代に聖(しょう)武(む)天皇によって造られた都である。当時、たびたび疫病や戦乱に見舞われ、世情不安の中、こうした事態を打開するためか、聖武天皇は、奈良の平(へい)城(じょう)京を離れ、各地を転々とした後、天(てん)平(びょう)12年(740)に現在の加茂町瓶原(みかののはら)の地を中心に新都を定めた。しかし、恭仁京は天平16年(744)にわずか4年あまりで廃(はい)都(と)されてしまう。

その後、宮域は大極殿(だいごくでん)を中心に、山城国分寺として再利用されることになる。山城国分寺跡は、恭仁宮の大極殿をそのまま用いた金堂(こんどう)跡を中心に南北3町(約330m)、東西2町半(約275m)の広大な寺域を持つ寺であった。山城国分寺跡(恭仁宮跡)には、現在も金堂跡(大極殿跡)基(き)壇(だん)と塔(とう)跡基壇が地表に残されている。周囲を堀に囲まれた踏(ふみ)は、残されている基壇跡や礎(そ)石(せき)跡から考えて七重塔であったと推定される。

※説明板より



0001\_恭仁京



0002\_恭仁京



0003\_恭仁京



0004\_恭仁京



0005\_恭仁京



0006\_恭仁京



0007\_恭仁京



0008\_恭仁京



0009\_恭仁京



0010\_手前の上狛駅周辺



0011\_手前の上狛駅周辺



0012\_手前の上狛駅周辺



0013\_手前の上狛駅周辺



0014\_手前の上狛駅周辺



0015\_手前の上狛駅周辺



0016\_手前の上狛駅周辺



0017\_手前の上狛駅周辺



0018\_手前の上狛駅周辺



0019\_手前の上狛駅周辺



0020\_手前の上狛駅周辺



0021\_手前の上狛駅周辺



0022\_手前の上狛駅周辺